

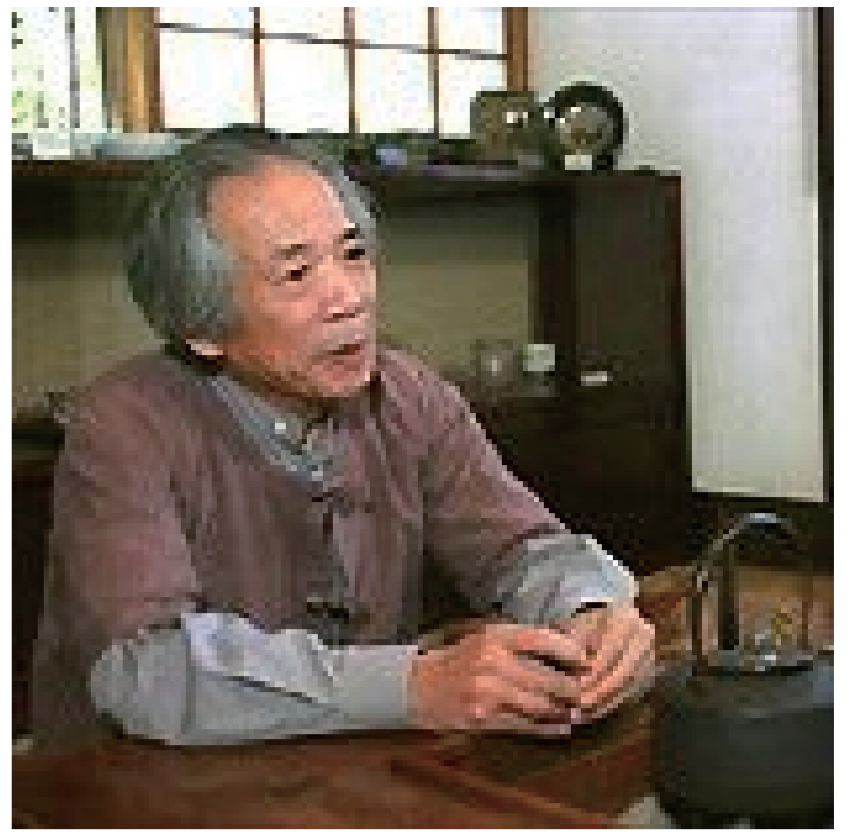
中里重利 (なかざとしげとし)

1930年(昭和5年)佐賀県唐津市に中里無庵の三男として生まれる。

プロフィール

- 1952年 日展初入選。
 - 1965年 特選・北斗賞を受賞。
現代日本陶芸展では1956年から連続7回入選。
 - 1973年 唐津市神田に窯を築く。(三玄窯)
 - 1975年 日本現代工芸美術展で会員賞・文部大臣賞を受賞。
 - 1985年 日本新工芸展で会員賞・楠部賞を受賞するなど各公募展で入選、入賞を重ねる。
- 1977年に日展会員、日本現代工芸美術評議員。
日展審査員も務め、1986年から評議員。
1985年には佐賀県芸術文化功労賞を受ける。佐賀県陶芸協会理事。

古唐津からの流れを踏まえた作陶に励み、理想とする作品にはさりげない品格が漂います。古唐津の技法を復元し、人間国宝に認定された故中里無庵氏の三男。小さいころから父にろくろ、窯たきなどを徹底してたたきこまれ、卓越した技術を身に付け、父の片腕として窯を切り盛りしました。その作品は、計算し尽くされた精巧なフォルムを生みだしています。



中里重利の言葉

土の眠りを覚し、語らせてみたい。
燃えさかる炎をくぐらせ、新しい世界を拓きたい。
これが私の願いです。

桃山の昔、岸獄の山峡に登窯を築いた先人たちは、無心にろくろを回し、素朴な古唐津と呼ばれている焼物を生み出し、今もってそのみやびやかさを誇っています。

この伝統を業とする中里家に生を享けました私は、父無庵のもとで厳しい修業を積み、古伝の技にも習熟し、先人たちの道跡の上に、更に独自の作境をひらくべく唐津、神田山口に窯を築き精進いたして居ります。

「天・地・人」のもとい。「土・技・炎」の三位一体。
これにちなんで三玄窯と名づけました。

神秘にして優雅・古里のやすらぎ、無限につきないこの焼物の魅力を皆様と共に追求して参りたいと存じております。
今後共よろしくお願い申し上げます。

中里重利